

数値地図に関する利用動向実態調査

実施期間 平成16年度
地理情報部情報管理課 作 敏男

1. はじめに

本調査は、国土交通省国土地理院が作成している数値地図を取り扱っている販売店及びユーザーを対象として、アンケート調査を実施し、数値地図に関する利用動向資料の作成、利用動向の分析、利用拡大に関する考察をし、数値地図の普及啓発の促進と利用者へのサービス向上に資することを目的としている。

2. 調査内容

調査の内容は、国土交通省国土地理院が作成している数値地図を取り扱っている全国の地図販売店の中から、数値地図を取り扱っている販売店に対し、数値地図の販売状況等の実態をアンケート方式により調査し、その結果を集計、分析したのものである。

併せて、地図販売店を通じて、数値地図購入者に対し、アンケート方式により利用動向を調査し、その結果を集計、分析したのものである。

3. 得られた成果

1) 数値地図販売店実態調査

イ. 数値地図の取扱店について、利用者の利用しやすい環境を考えた場合、身近なところで直接、目に触れ、手に触れて利用できる事が、最良と考えられる。このためには、取扱店が多い事が有効であり、今後とも、販売店の拡大が必要と考えられる。

ロ. 数値地図の形状等の商品としての特徴もあり、販売店における在庫量確保の問題はあると思われるが、地方別保有、県内保有が扱う範囲の主体となっている。地域に即した販売体制ともいえるが、一方、各種類の全国保有を行うことによる販売拡大も視野に入れる事が望ましい。これらを視野に入れた、販売店の環境整備等の指導育成が必要と思われる。

ハ. 今回の調査の販売枚数を、前回の調査（平成11年）との比較で見ると、回答数の違いはあるものの、販売の伸びを示している。しかしながら、近年の販売枚数は減少しており、今回の調査の項目の1つである「数値地図の需要動向についての特徴的なもの」を見ても、（地図画像が落ち込んだ時期もあったが、再び盛り返している。）とする回答がある一方で、（年々売れ行きが落ちており、平成16年度は販売がない。）との回答もある。

販売店の立地状況や規模の違い等があるものと思われるが、比較的売れ行きの良い販売店に押し上げられた回答数のように推察される。このようなことから、普及活動の必要性が認められるところである。

ニ. 販売店においては、利用者と接するなかで種々の質問を受け、対応に苦慮している事が伺われ

る。質問され困っていることの解決策の1つとして、販売現場での声でもある、「内容を詳しく説明したカタログ・パンフレット」、「内容を詳しく説明したデモ版」等を早急に作成して、販売拡大に資するよう販売現場での活用を図ることが望ましい。

ホ．講演会・研究会等は、販売店の知識の向上につながり、より詳細な説明等を利用者に行うことにより、販売拡大につながるものと思われる。更には、販売店の意識の改革等の面でも有効なものと考えられるので、開催場所等を考慮しつつ定期的に開催する事が望まれる。等

2) 数値地図ユーザー実態調査

イ．今回、数値地図を購入した回答者の年代別内訳を見ると、10代から60代以上と幅広い利用があり、今後の販売の伸びを期待したいところである。また、回答者の職業別内訳を見ると、概ね20数種類に分けられる職種となっており、利用者の層が厚いことが伺われる。今後のPR等により、職種についても一層の拡大が図られれば、幸いである。

更に、回答者の都道府県別内訳で見ると、北海道から九州まで幅広く利用されているものの、今回の回答者の中で見るかぎり、購入者0という所もあり、幅広くPRするなど継続的に根気良く行う事が必要であると思われる。

ロ．今回の回答で、価格については、約90%の者が現在の価格を妥当な価格と考えているが、一方で、値下げを希望する者の意見も、職種等から見ても無視し難いところもあり、今後の検討を望むところである。

ハ．今後の提供の仕方についての意見で見ると、販売店と同様に、店頭での販売を希望する者が最も多く、約59%となっており、販売店の拡大を図るとともに、購入者が店頭において、自ら手に取り理解できるような、カタログ・パンフレット等の充実と、販売店の教育が急務であると考えられる。

4. 結論

アンケートを送付した販売店は、過去の実績から抽出した数値地図取扱店で346店であり、回収率は57%であった。また、ユーザーアンケートは、調査期間内における数値地図購入者を対象として、調査票は1500人を対象に店頭で手渡した結果、回収率は25%であった。

数値地図販売店実態調査の結果では、利用者が数値地図を利用しやすい環境をつくる必要がある。つまり、数値地図販売店の拡大が必要であり、数値地図を直接目に触れ、手に触れて利用できる事が大事である。また、販売店の環境整備等の指導育成が必要で、カタログ・パンフレットの活用及び講演会・研究会等による販売店の知識の向上も求められる。

販売方法としては、店頭販売に重点を置きつつ、インターネットによる販売という提供方法を進めていくことが時代の流れであり、適切と考えられる。

数値地図ユーザー実態調査の結果では、購入した回答者の年代別内訳を見ると、10代から60代以上と幅広い利用があり、今後の販売の伸びを期待したいところである。職業別内訳を見ると、概ね20数種類に分けられる職種となっており、利用者の層が厚いことが伺われる。

数値地図の中で最も売れているものは25000（地図画像）が圧倒的に多く、利用方法としては、地形解析が一番多く、続いて防災、施設管理、土木建設、地域計画の順であった。

なお、価格については、約90%の者が現在の価格を妥当と考えているという結果であった。